

ソリューション提案だけでなく コンテンツ開発までトータルで支援



ケーブルテレビ局のデジタル放送設備整備にあわせてデータ放送を含めたトータルソリューションを提案してきた(株)ブロードネットマックス(東京・港区、金崎 稔社長、以下BNMUX)。全国的にデジタル化対応が進み、各事業者が新たなサービス展開を模索する中、データ放送への期待は一層高まりつつある。BNMUXはソリューションからビジネス展開支援、そしてコンテンツ開発までトータルで提案し、注目を集めている。

柿沢裕治氏 BNMUX機器システム本部 デジタル技術部 部長補佐

高まりつつある データ放送への期待

BNMUXでは、地上デジタル自主放送システムを軸としたトータルソリューションにおいてL字送出、コンテンツマネジメントシステム(CMS)、権利保護スクランブルシステムなどとともに自主データ放送システムを提案。中心となる自主放送システムはHDチャンネル+SDチャンネルの同時送出、及びそれらのみだら放送を実現するもので、すでに全国150局余りで導入されている。

BNMUXのデジタルソリューションは、ケーブル局の完全デジタル化をサポートし、基幹部分をフルカバーしつつ将来の拡張性に含みを持たせたものになっている。データ放送自体も基幹のひとつに組み込まれているが、最近では単独の受注も増えつつあり、データ放送もいよいよ本格的なデジタル放送サービスのひとつとして注目が高まってきているという。

「特に、地方自治体を母体とするケーブル局で、情報ツールであるデータ放送への期待は高い」とBNMUX機器システム本部デジタル技術部部長補佐の柿沢裕治氏は語る。地上波民放では広告との絡み

から思い切った運用に歯止めがかかりがちだが、公共性が高くかつ大量の情報を発信したい自治体にとっては願ってもない情報発信ツールとなっている。またサービスの性格上、設備投資しやすい内容であることも追い風となっているようだ。

同社が提案する自主データ放送システムは、ケーブル局向けデータ放送では多くの稼働実績がある(株)メディアキャスト(東京・渋谷区、杉本孝浩社長)製の「DataCaster suite (データキャスタースイート)」。「DataCaster suite」は、簡易かつ低コストでの運用が可能であり、中でも120種類以上の多彩で魅力的なプレートと、誰でも簡単にコンテンツが構築できるツールは多くのケーブル事業者から支持を集めており、今までNHKや地上デジタル放送民放各局にBML制作ツール類を提供してきたメディアキャストの技術が活かされているという。

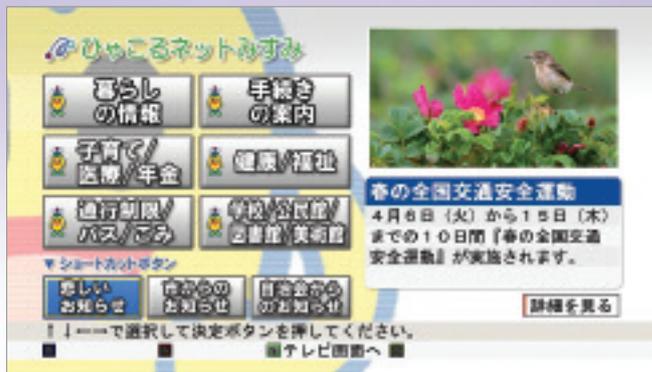
「価格面もさることながら、テンプレートをはじめとするコンテンツ制作支援、そしてユーザーニーズに素早く対応してシステムを進化させるメディアキャストの姿勢が功を奏し、ケーブル局によるデータ放送実施の敷居を大きく下げた」(柿沢氏)。実際、用意するプレートの数は実績とともに増加、ユーザー満足度をさらに向上さ

せており、BNMUXが提案するデジタルソリューションに欠かせない存在となっている。そこにBNMUXの送出技術と万全な保守体制が加わり、BNMUXならではの提案で、多くのケーブル局から注目を集めている。「構想段階から納入後まで、ユーザーの要望にこたえ続けるのは当社の役割。高度なデータ放送サービスの実現においてメディアキャストのバックアップのもと、BNMUXが一定のデータ放送スキルを保持することでより円滑な対応も可能になります」。送出系などBNMUXが得意とする分野と絡んだ要望も多く、データ放送を含めたトータルソリューション的な対応力を発揮しているようだ。

特長的な2つの事例

ひゃこるネットみすみ リビングにいながら 町役場の情報を入手!!

BNMUXが特長的な導入事例として挙げたのが島根県浜田市の「三隅ケーブルテレビ」(ひゃこるネットみすみ)。地域のお悔やみ情報から各種自治体関連情報に

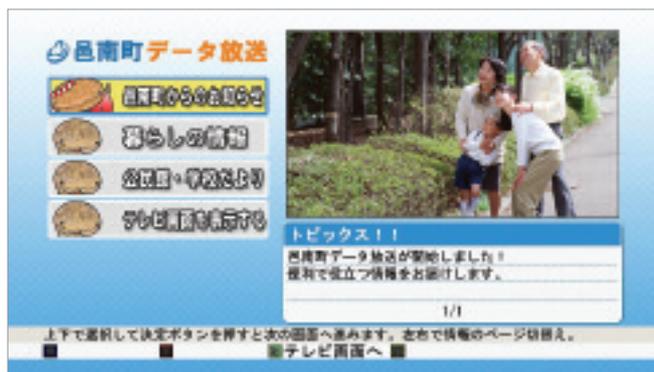


ひゃこるネットみすみのデータ放送画面

いたるまで圧倒的なコンテンツ数を誇り、機能面でもテンプレートをベースにしつつもさまざまなカスタマイズを加えた「スペシャル版」として仕上がっている。まさに、ひゃこるネットみすみのデータ放送は、リビングで情報全てを知ることができるほどだという。

このケースでは事前準備も万全で、日々更新される各種公共情報をデータ放送に提供するため、自治体各部署の担当者個々に至るまで意思統一がなされているという。つまり、データ放送向けコンテンツの入力作業のほとんどを自治体職員が行い、ケーブル局側の作業量を大幅に軽減させている。実際、ケーブル局スタッフの作業はお悔やみ情報の入力くらいということだった。

また容量の限度に近いほどの大量なコンテンツを提供しているが、そこでも視聴者が利用しやすくするため、ポップアップ表示やショートカット機能を搭載するなど工夫が凝らされている。ポップアップはメニューフォーカス時に遷移先のコンテンツ内容が表示される仕組み。階層遷移を経ることなくある程度の内容がつかめる機能として利便性を高めている。



おおなんケーブルテレビのデータ放送画面

おおなんケーブルテレビ

デザイン性を重視し、
使う楽しさを演出!!

もうひとつの特長の事例が、同じく島根県 邑南町「おおなんケーブルテレビ」(OHTV)。

機能面、コンテンツ数などは一般的な事例と変わりはないシンプルなものだが、特長的なのはデザイン性。テンプレートをベースとしているものの、各メニューに自作アイコン(オオサンショウウオほか、さまざまな動物)を配置し、かつカーソルフォーカスに応じて動物が手を挙げるなどの動きを見せて、使う楽しさを演出、親しみを沸かせる工夫を施している。

「データ放送においてデザインは成功の鍵を握る重要なファクター。利用の有無に大きな影響を与えることもあるはず」(柿沢氏)。一般的にBML画面テンプレート提供型のデータ放送システムは制限が多く感じられるケースが多いなか、提供される画面テンプレートに十分なカスタマイズの余地を残している点は「DataCaster suite」の特長の機能のひとつであり、ケーブル局側の自主性を促す効果をあげて

いるようだ。OHTVのケースはその有効活用事例であり、アイデアひとつで優れたデータ放送を展開できるモデルケースとして紹介することも多いという。

CMS連携で次のステップへ

当初はデジタル化をソリューション提案のきっかけとしてきたが、デジタル設備整備がひと段落を迎えるにあたってデータ放送単独での納入事例も増加。そして現在、BNMUXが推進するのが、「CMSと組み合わせた提案」。

データ放送運用の迅速性向上やコンテンツ量増大が期待できるほか、PC・ケータイサイトを含むマルチメディア展開にもつながられるソリューションとして、ケーブル局の反応も上々だという。

現状、CMSの導入事例は全体の3割程度ということだが、「提案段階で興味を持ってもらえるケースも増えてきました」と柿沢氏は語る。当面は自主放送システムを軸としたデジタル化のトータルソリューション提案が続くことになるが、近い将来、デジタル化達成率を見極めたうえで、メディアキャスト製CMSである「DataCaster contribute (データキャスター コントリビュート)」をはじめとするCMS+データ放送の連携ソリューションに切り替えていくことになりそうだ。

また新たなデータ放送コンテンツとして、携帯電話向けの自社開発アプリケーション「ここだよ、みつけて!」(位置情報確認サービス)の応用を模索中。小さな子供の位置情報をデータ放送、つまりはテレビ受信機上に表示するというサービスで、ケータイリテラシーの低い高齢者などの活用が期待される。実現時期などは未定だが、ケーブルテレビのデータ放送としては一定の支持を受けることは確実だろう。

ソリューションの提案からビジネス展開支援、そしてコンテンツの開発まで。役割を広げつつあるBNMUXは、常にユーザーとともに歩み続けている。

【お問い合わせ先】

(株)ブロードネットマックス
営業本部 営業部
〒108-0075 東京都港区港南4-1-8
リバージュ品川
TEL.03-5783-1020
http://www.bnmutex.co.jp